

特集 I

小特集(その4)の発刊に当って

川井忠彦\*  
Tadahiko KAWAI

昭和46年度より開始された上記標題の臨時事業においては都市機能を人間の活動と対比させ、本事業の目標として次の三つの研究を推進すべきであることを提案した。

- 1) 外乱を受けにくい都市システムの開発(人間で言えば健康管理あるいは体質改善)
- 2) 外乱を受けたときの都市機能の最適制御法の研究(予防医学)
- 3) 外乱により障害を受けた都市機能回復のための最適手順の開発(診断, 治療)

そして先づ第一の目標である外乱を受けにくい都市構造の研究を(i)「都市構造物の耐震強度の調査研究」(第1グループ) (ii)「都市交通公害対策の調査研究」(第2グループ) (iii)「都市廃棄物対策の調査研究」(第3グループ)の3点に絞って展開し、その成果を本誌の3回に亘る小特集と1回の特集号に要約して発表した。

以上の研究を当所の第1次臨時事業と呼ぶことにすれば、第1次臨時事業の進展に伴って、各研究グループとも研究の規模拡大、長期化および相互調整の必要性を痛感した。これと併行して本事業の第2, 第3の目標である都市機能の最適制御や都市機能回復のための

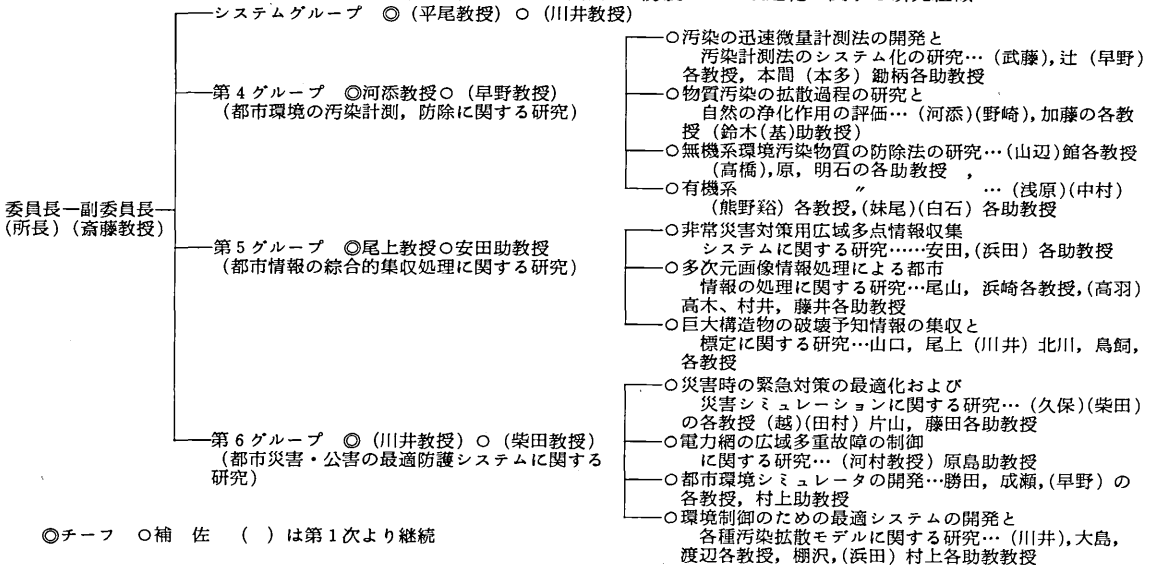
最良手順の開発に関する研究を完成させるためには更に外乱とそれによる被害の検出および防護に関する研究を新たに推進すべきであるという結論に到達した。

上記の結論を基にし、本所の化学物理計測, 多次元情報処理やコンピュータ, シミュレーションや制御技術の専門家集団を動員して次に述べるような3つの研究からなる第二次臨時事業を推進させることになったのである。

(a) 環境汚染防除に関する研究(物質汚染防除システムあるいは第4グループ) (b) 都市情報の総合処理の制御システムの調査研究(多次元情報処理あるいは第5グループ) (c) 都市災害・公害の最適防護システムに関する研究(都市機能の最適防護システムあるいは第6グループ) 本年は第二次臨時事業の初年度であるのでこれらの3つのプロジェクトチームの研究目標, 計画および組織について第一次臨時事業にならない, 本小特集で紹介する運びとなったのである。各プロジェクトチームの具体的研究計画については、後でグループ毎に詳細な説明が行われることになっているのでここでは第二次臨時事業の研究組織を表にして紹介するに留めたい。

(昭和50年1月27日受理)

第2次臨時事業研究 災害・公害からの都市機能の防護とその最適化に関する研究組織



\* 東京大学生産技術研究所第2部